

OB会 だより

挑戦シリーズ
No.31



定年後の人生

新しい道に挑戦し、輝いている仲間がたくさんいる

その一人 川内 正子さん

家庭菜園で 野菜と花づくり 元気いっぱいです。

15 年前から休耕田の 40 坪を一区画として、近所の人達と家庭菜園をしています。失敗を重ねながらも、年々の進化はうれしいです。「ねぎの苗が余っているけど植える？」収穫の時は「どうぞ」等声をかけ物々交換。不揃いでも、新鮮さに勝る美味しさはありません。

友人は「畑は宝の山」と。野菜の他に好きな草花の栽培もしています。家庭菜園のおかげで、近所の方がたとの交流もでき、又家族の会話も増えています。OB 会総会に出展した私の作品「段ボール箱のミカン」は、25 年前家族で食べた甘夏の種を育てたものです。(川内正子さんは、看護師として 2014 年 1 月、きょうりつ訪問看護ステーションを最後に退職しました)

新入会員紹介

よろしくお願いします



★ 久保園 和美さん ★

2012年12月15日、38年間勤務して定年退職しました。

その後も協同病院外来で、パート職員として週3~4回勤務させていただいています。

先日退職者の会に入会させていただきました。今後先輩の皆様とお会いできることを楽しみにしています。よろしくお願いいたします。

★ 富樫 梨花さん ★

母の介護をしながら週4日のパート勤務をしていました。

65歳で退職し、OB会は失礼しておりましたが、最近みなさまとお会いできるのは、かつての仲間・先輩たちのご不幸の席でということを実感し、「これではいけない、元気なうちにお会いしたい」と痛感し、遅ればせながら入会をお願いしました。よろしくお願いいたします。

沖縄平和の旅

歴史の重み、現実の姿 歩いて見て学んだ4日間



再び訪ねることのできたOB会「沖縄平和の旅」は4月24日から4日間。

21名の参加者は那覇空港から不屈館へ直行、青い海を眺めながら、伊江島、辺野古や高江、美ら海水族館、糸数アブチラガマ、ハンセン病療養所「愛楽園」などをまわりました。熱心な案内をいただいた名護教育委員会の川満さん、沖縄平和ネットワークの瀬戸さんの説明から、持ちきれないほどたくさんの学びと体験、楽しみをおみやげに、OB会ならではの旅を満喫した4日間でした。

日本全体の問題として 考え 行動したい

深田 澄子

私たちが行った24日には、嘉手納基地でパラシュート降下訓練が6年ぶりに県や町の中止要請にもかかわらず実施されたり、25日には辺野古護岸工事が県民の反対を押し切り、安倍政権によって強行されました。沖縄にとって、日本にとって新局面の日に遭遇したことを強く感じました。辺野古・高江・伊江島・糸満と基地の最前線で頑張っている人たちにお話しをお聞きすることができました。とくに伊江島では島の三分の二が基地だったものを粘り強い戦いで三分の一までにしたそうです。お話を聞いている最中にも、上空三千メートルから次から次へと人が降ってきます。パラシュート降下訓練です。今日は人だけでしたがブルトナーなどが降ってくる可能性があります。まかり間違えば大惨事になります。沖縄は日常生活が常に危険にさらされている事がよくわかりました。日本全体の問題として考え行動したいと思いました。



高江の団結小屋で激励と支援の交流会

生きる自由と権利を 護り 闘って いかねば

金井 東望子

沖縄には2度行ったが、今回は伊江島に行くというので参加しました。辺野古のテント村は2002年の時とは異なり、コンクリートブロックばかり。たしかフェンスの向こうに白い砂浜が



土地返還の闘いを引き継ぐ青年たちを育てた団結道場

ちらりと見えた筈・・・ また糸数のガマは娘が高校入学の年1989年、知人の案内で訪れた時は畑のど真ん中、たしかこの辺に？あった！という程度のわかり難い場所でした。懐中電灯の準備もありましたが、案内人の「今でもよく探せば人骨があるかも？」という言葉に娘は怖がり入り口付近を電灯で照らしただけでした。

伊江島は本部港から見て右寄りの方に城山があり他は平地、日本軍が東洋一の飛行場をつくる所と決めたのも理解できる地形です。今は使用されていない滑走路で案内人の説明を聞いている時、音もなく空からパラシュートが基地内に吸い込まれていくのを見て、何の前触れもなく武器やら車まで降ってくるという話に、皆固唾をのんで上空を見上げました。伊江島については事前に資料が配布されていましたが、わびあいの里で入手した阿波根昌鴻著「米軍と農民」の本を読んで、敗戦から今日までアメリカは手に入るものはどんな手段を使ってでも手に入れてきた。その手法は変わらないだろう。私たちは人間として自由と権利を常に闘い護っていかねばならない、気をゆるめずに、と心する旅でした。



心に深く残った 沖縄平和の旅

山口 健司

「本土決戦の捨石になれ」と日に日に敗戦が色濃くなった状況の下で、54万余の連合艦隊の圧倒的な掃討作戦によって沖縄は壊滅的な打撃を受けた。畳一畳に一発の着弾といわれるような激しい艦砲射撃によって、伊江島の全島民の半分以上が戦死したという。また沖縄島（本島）に配備された軍隊や島民は口では言い表せない苦痛と悲劇の中で14万人余の人々が戦死した。この悲劇は4/28の「屈辱の日」以後も、「ヌチドウ宝」の平和を求める県民の民意は今日もなお無視され続けている事を改めて痛感した旅でした。

「平和の旅」に参加した21名は、現地の実態をこの目で確かめ、平和につながる学習と交流する事にありました。私は、前にも「平和の旅」に参加しましたが、安倍首相の戦争の出来る国推



高江のヘリパット工事現場前
ALSOKの警備員に囲まれ 集合写真

進政策や民主主義を否定する政権運営、きな臭い世界情勢の下、訪問した先々で体験したことは例えば、伊江島では、米軍飛行場跡・団結小屋でガイドさんの説明の最中、落下傘部隊の演習に遭遇しました。実戦ではトラックや戦車も降ろすと聞いてビックリ。

非暴力を貫いた、瀬長亀次郎さんの「不屈館」や阿波根昌鴻さんを語った「わびあいの里」の

謝花悦子さんによる2時間のお話、辺野古や東村高江では、支援と交流が行われ、この企画の素晴らしさを感じました。また同行した寺島先生のハンセン病者とのかかわり、医者になろうとしたきっかけの話は、私にとってより一層素晴らしい旅の思い出になりました。ありがとうございました。

しんぶん赤旗に投稿しました!!

富田 孝博

沖縄訪ね目撃
米軍降下訓練
さいたま市
富田 孝博(71歳)
「埼玉民医連退職者の会(略称・OB会)21人で「辺野古新基地建設ノ」で沖縄を訪問してきました。ちょうど、護岸工事に着手強行した翌日でした。「もっと県民の声を聞け」との抗議行動が行われていました。


私たちOB会は2回目の訪問ですが、いま見る辺野古の海辺は砕石で海岸をせき止めた箇所もあり、以前の辺野古の海とは変わっていました。現地を見て安倍政権に新たな怒りを感じました。

オスプレイ着陸帯が建設された「高江の森」にも行きました。住民無視の夜間飛行も多く、私たち一行は10人の警備員が立っているゲートに向けて

「沖縄を返せ」の歌を合唱しました。

伊江島にフェリーで渡り、広い滑走路で説明を受けている時、突然、静かに上空から降りてくる米軍のパラシュート降下訓練を目撃。「あれはー」とびっくり。沖縄全土で米軍の使い放題にされている現状を学びました。

17.5.19 赤旗




1959年6月30日 米軍のジェット戦闘機が宮森小学校や民家を直撃、小学生11人を含む死者18人、重軽傷者210人を出した墜落事故。毎年この日には児童会主催の追悼集会、住民らによる慰霊祭が行われている。校庭にある慰霊の「仲良し地蔵」を囲んでの参加者。

私の近況



◆ 若杉 博

昨年9月から、両手のシビレと痛みで悩まされています。また、右手の親指が十分に曲げられず物を持ったり、文字を書くのに苦労しています。CTやMRI検査などを実施しましたが、頭の中は特に異常はなく、最終診断は軽度の「頸椎変形症」ということです。服薬を続けたり、整体術や接骨院などに通いましたが、今のところ効果なしです。シビレ感は1日中続きユウウツな毎日です。良い治療法があるのか否や。

◆ 松本 光正

毎週木曜日はおおみや診療所で診療、月に一回ずつ浦診、協同病院勤務、残りは「サン松本クリニック」で働いています。そして診療の合間をぬってあちこちの講演活動、保険医協会活動、反核医師の会など色々な所に首をつっこんで夜10時、11時に帰宅することもしばしばです。常勤職員だった頃も超忙しかったですが、今は一日のうちに3箇所も4箇所も動いたり、以前とは違う種類の忙しさを楽しんでいる毎日です。健康だから出来るのですね、本当に感謝です。

◆ 山形 文子

ようやくインフルエンザ流行も終わったよう。バタバタした毎日から少し落ち着いて慢性疾患の患者さんたちと向き合う時期になりました。7月で丸11年、終りもみすえて仕事していきたいです。



◆ 岡村 和夫

3月15日に退職しました。今は兄から譲り受けたカメラ片手に「ニコンカメラ教室」に通い勉強中です。水元公園、都庁などを撮影地に先生の指導を受けています。カメラを始めての楽しみは、現役時代と

何ら変わることなく教室終了後の一杯かな？ いろいろな人たちと知り合い新しいつながりも楽しいです。来年の総会時には「私の作品展」いや夏の「平和美術展」いやいや、皆さんをアッと驚かせるような作品を・・・目指しています。

もう一つは、写真を撮るにも“眼”が肝心！ 6月に白内障の手術をし、世の中がよく見えすぎてサングラスを着用しています。いろいろな機会にご一緒できるのを楽しみにしています。

お知らせ

2017年 原爆死没者慰霊式

- ◇ 7月30日(日) 10時～12時
- ◇ さいたま市民会館うらわホール

今年は肥田舜太郎先生のお名前が物故者名簿に載ります。

私達は 先生の思いを 引き継いでいきます

肥田舜太郎先生を「偲ぶ会」が5月7日浦和ロイヤルパインズホテルで行われ、OB会からもたくさんの仲間が参加、先生との別れを惜しみました。

また、OB会だより「肥田先生の思い出を語りましょう」の呼びかけに会員通信や投稿をたくさんいただきありがとうございました。



肥田先生 ありがとうございました

松本 光正

こうして私が今あるのは本当に先生の大きなお力のお陰です。

まず第一は埼玉民医連に誘って下さった事です。わざわざ自宅まで訪ねて下さり熱心にお誘い下さいました。次は保険医協会に誘って下さった事です。先生の替わりにちょっと理事会に出てくれないかと言うのが最初だったと思いますが、あれから40数年、まだ理事の仕事の続けさせていただいています。この保険医協会との関わりは、私にとってとても大きな役割を果たしました。世間を広く見るきっかけとなり、日常の医療でも大きな役割を果たしてくれています。

そうそう、今住んでいる大宮染谷の自宅の土地を紹介して下さいましたのも先生でした。お陰で私の家族、家内の両親も平穩に過ごすことが出来ました。

そして私は今、講演をすることが大きな仕事になっています。始めは趣味のつもりでしたが、今は私の趣味兼仕事、人生目標であり、ライフワークになっています。これも先生があちこちに講演に行かれるお姿を見ていて、私も定年になったら講演の仕事をしてみたいなあ・・・と思ったのがきっかけです。本当にありがたいと思っています。

講演にまつわる先生の思い出を一つ二つご紹介します。数年前、先生と雑談しているとき、私は機を見て、私が講演を年間97回したことを自慢しようと鼻高々だったのですが、何と先生が「松本君、私は去年150回講演しましたよ」と仰るのです。まさにぎょぎょぎょでした。150回ですって！脱帽です。その頃93~4歳ではないでしょうか。凄いものです。また数年前、北海道の知人から先生に講演を頼みたいのだがその仲介をしてほしいと言われ、その旨先生に告げました。講演の時期は真冬の2月です。すると先生は二つ返事で「いいいですよ」

と答えられました。宿はどうされますかとお聴きしたら「宿はいいです、日帰りします」というのです、これにも驚きました、真冬の二月に北海道に行くのですら大変なのに泊まらずに日帰り、いとも簡単に仰るのです。本当にパワーのあるお方だと思いました。

まだまだ思い出はいっぱいあります。一緒に往診に行った事や、浦和の千代田旅館に泊まった時、夜遅くまで原爆の体験を生々しく語っていただいたことなど沢山あります。被爆者と一緒に中国に行く機会を作って下さったり、その他諸々とても短い紙面では書ききれません。

どうぞ先生、ゆっくりお休み下さい。長い間ありがとうございました。

肥田舜太郎先生のエピソード

【 原爆症認定集団訴訟編 】

石丸 乾二

肥田先生は大阪地裁判決を前に「俺と齋藤さん（齋藤紀医師＝現・福島わたり病院）とで翻訳したパンフレット『死に至る虚構』が証拠として採用された」とホッとした様子でした。

2006年5月12日大阪地裁は『原告らの被告厚生労働大臣に対する本件各却下処分の取り消し請求はいずれも理由があるからこれを認容し・・・』という原告9人全員認定されるべきという勝訴判決でした。この判決に「やはり、DS86の壁は厳しい。

1人でも『認定』の判決が出たら大勝利だ」と弁護団と話し合っていたのが、9人全員勝訴！肥田先生の顔はほころんでいました。入市被爆者の原爆症が、直接被曝した原爆症とさして変わらないのに、ABCC時代からの基準DS86に対抗する理論をピッツバーグ大学のアーネスト・スターングラス教授に教わり、低線量被曝恐怖を体験談も含めて裁判で被曝60年後に仇をとったのでした。しかし、その治療法が見つからないので、核兵器や原発などの廃棄・廃絶を求めるしかないとの結論は変わりません。

※ DS86 とは、ネバダ砂漠で広島型・長崎型の原爆を追実験して、米軍なりのやり方で放射能を測定、国際的な安全基準、危険領域の基準としてしまった。これは、低線量被曝＝内部被曝を全く無視したもので、良心的な医師達との間にいまだに対立が続いている。しかし原爆症集団訴訟・大阪地裁判決では、証言に立った肥田舜太郎先生の主張や民医連原爆症認定訴訟支援医師団・被ばく問題委員会の「意見書」などが認められた。



力いっぱい生き抜いた人生 多くの人の 心と人生 に贈り物を

山形 文子

2月のOB会総会で元気だった肥田先生が、1ヶ月後亡くなられたとの連絡で大変驚きました。100歳という年齢が回復を許さなかったのかもしれませんが。最後まで付き添われた方、お見舞いに訪問した方々が、我々の思いを代表して先生に伝えてくださったと思います。

埼玉協同病院がオープンした1978年、先生は61歳だったのです。埼玉、全国、海外と忙しい業務の中で、私たち若手医師に民医連の歴史、平和の活動については繰り返し話してくださいました。新卒医師とともにご自宅に伺って奥様とともに私たちをもてなしてくださった時間は、



「肥田舜太郎先生を偲ぶ会」展示場

楽しく有意義でした。日立に戻ってからもすぐ訪ねて来てくださって、やさしく励ましていただきました。その後もう一度日立にお招きし、こちらの友人たちにも被爆のこと等話していただきました。力いっぱい生き抜いた人生。多くの人の心と人生に贈り物を残していかれました。ありがとうございました。



愛媛新聞にも 肥田先生が・・・

和田 美津保

愛媛県に住んでいる私のところでも、肥田先生のご功績と真摯なお姿を新聞に載っていました。

告別式には出席できませんが、先生のご功績と真摯なお姿を偲び、どうぞ安らかに休息ください。松山からお悔やみ申し上げます。



先生のご遺志を受け継ぎ 地域の中で実践します

若杉 博

5月7日に開かれた「偲ぶ会」には400人を超える人が参加しました。柔和な笑顔をされた大きな遺影を見ながら、あらためて先生の大きさを感ずりました。先生は「お

金のあるなしを医療に持ち込まない」「核兵器と人類は共存できない」ことを生涯貫きました。埼玉民医連に入職して、まじかに接する機会があったことを感謝しています。職員の「平和のつどい」などで「医療・福祉にかかわる一人一人が、すべての命は平等と言う理念をしっかりと持ち、核廃絶、平和、民主主義を守ることを、日常の仕事の中で意識してほしい」との言葉は今でも頭の中に残っています。先生のご遺志をうけつぎ、微力ながら地域の中で実践したいと思います。

「民医連看護とは」 学んだ世代です

梅原 恭子



私は浦和民主診療所で埼玉民医連の仕事をスタートさせました。「民医連看護とは」について学ぶとき、「肥田論文」をテキストに学んだ世代の私としては、「この方が肥田論文の肥田先生なのか」と緊張しながら診療介助についたことを思い出します。被爆者の方々の様々な訴えに対して、笑顔で「たいへんだったねー」といいながら、必要なことを聞きとってペンを走らせていました。介助のために診察室の中にいたときに別の事に気をとられ、ベットに横たわった患者さんが身を起こすときに、一瞬介助の手が遅れたことがありました。「君は何をしているの？」と厳しい視線を向けられたことが今でも忘れられません。いま目の前におられる患者さんに集中することと、深く刻んだ出来事でした。ありがとうございました。



肥田先生

私も長生きして 後に続きます

木内 恭子

私が肥田舜太郎先生に初めてお会いしたのは1978年、埼玉協同病院が設立され約6ヶ月後のことでした。看護師資格と経験があったので、この病院で何か活かせるものがあるのではと希望し、約10年間手術室に勤務しました。

先生は広島陸軍病院の医師であった時被爆され、私も9歳の時広島で被爆、奇跡的に生き、生かされ、ここ埼玉で肥田先生にお会いできたことは不思議なご縁と感じました

埼玉民医連のセンター病院の院長として対外的な仕事も多く、直接お会いしてお話をする事も殆んどありませんでしたが、先生はこの間被爆者の医療・福祉の相談、援護に心血を注がれ、埼玉県原爆被害者協議会（しらすぎ会）を創られ、中心的に活躍されました。

先生の威力を知ったのは、内部被爆についてずっと取り組んでおられ、原爆症認定集団訴訟の

大阪地裁での証言が全員勝訴に導き、厚労省の最高裁判所への上告を断念させたこと、60 数年にしてやっと入市被爆者が直接被爆者と同じように苦しみ、病気になり死んでしまうようになるのか、これを裁判の判決で、はっきり書き込んでもらうことができたことです。

今、原爆症認定患者数も全国で 8000 人を超え、埼玉県でも 80 人に達しています。あの原爆の犠牲は何をもってしても償うことはできません。核兵器禁止の国際条約の下で核兵器を廃絶してこそ人類の未来も、被爆者の未来もあるのだと肥田先生は話されてきました。

最後に先生と楽しかったことを一言、

今年の新年会でも、皆と一緒に好きな歌「道づれ」を歌い、ハメをはずしてあのバナナのたたき売り、声をはり上げてやってくさいました。

いつもやさしい眼差し、笑顔で接して下さった先生、「被爆者は一日でも長く生きること」「一日一日を大事に規則正しい生活をする事」「しっかり目標をもって生きてください」と折に触れお話されました。先生 ありがとうございます。私も長生きして後に続きます。

貴重な体験を

ありがとうございました

鈴木 智子

2015 年 7 月、肥田先生は奥様の純子さんと二人で「老健みぬま」に入所されていました。

「妻の傍で最後まで見守ってあげたい」と語っていた 98 歳の肥田先生。

8 月の原水禁世界大会に参加する直前に純子さんが肺炎のため協同病院に入院しました。先生は広島滞在中に妻の死があるかもしれないと覚悟されていたようです。先生の部屋を訪ねた時「純子さんのお見舞いにいきましょうか？」と声をかけるとニコッと。車いすで純子さんの病室を訪ねると、お二人の会話がとってもステキで、思わずカメラのシャッターを切ったりしました。先生の「明日も行きたい」という一言を尊重し、純子さんの病室通いが始まりました。先生のラブコールもみのって純子さんも退院、先生も広島へ無事参加することができました。

私が民医連で働きたいと思ったきっかけを作ってくれたのは肥田舜太郎先生でした。1970 年代、看護学生時代に参加した「東北夏季ゼミ」で、肥田先生から「看護師に求める看護師像」の話を聞いたことでした。

2015 年 10 月、退職後に専属ボランティアとしていただきました。翌月「老健みぬま」で純子さんを看取った先生は、



食欲もなく心配でした。お弁当を届けたり、寺島先生宅に招かれ牛肉のおいしい手料理をいただきながら、民医連を作ってきた医師同志の語らいを楽しんでおられた様子は、うらやましくさえ思える貴重なひとときでした。

2017年3月、先生は肺炎で入院されました。何とか回復してほしいと願い病院へ通いました。声をかけるとあの素敵な笑顔が返ってきました。「先生 ガンバレ！」
精一杯走り続けた肥田舜太郎先生。

短い期間のボランティアでしたが、平和を願い活躍されているたくさんの方々にも出会うなど貴重な体験となりました。これからも仲間と共に平和について学び進んでいきたいと思います。
肥田先生 本当にありがとうございました。ご冥福をお祈りします。



おおみや診療所



訪問者：小田政満
小川祥江

緑色の丸い屋根の診療所、そんなイメージを持ちながら訪ねた診療所は、開設からすでに22年を経っていました。一步足を踏み入れると、診療所からのお知らせ、

組合員さんの作品などがきれいに整理され、初夏の風とともにさわやかな雰囲気です。

6月10日、着任から2カ月余りという原田芳子事務長にお話を伺いました。

診療所のめざす方向は

開口一番、地域みなさんに「おおみや診療所」があってよかったと思っていただけるような診療所をめざして・・・この言葉を裏づけるように、山田 晃務所長をはじめ24名の職員が患者さんを真ん中に、診療所の外来・在宅・健診を中心に取り組む医療活動、隣接する「おおみ

やケアセンター」では、居宅介護支援と訪問介護・デイサービスセンター、上尾にある訪問看護ステーション「かもがわ」の三事業所の連携した活動が日常的に展開され力強く思いました。

また、県南にある4診療所（浦和・川口・さいわい・おおみや）と協力して「強化型在宅療養支援診療所」として、医師、看護師、事務が参加するカンファレンスを毎月開催、困難事例やその時々の特徴などを学び合い連携した活動が取り組まれています。

最近、地域包括やインターネットから4人もの無料低額診療の相談がありました。その一人、福祉課の自立支援センターから紹介された42歳の男性は現在無職、手持ち現金は1,000円、ライフラインは止められフードバンクを利用。就業をめざすも腰痛があり「湿布だけでも処方を」と受診。うつ症状もあり就業は難しく福祉課で生保検討となりました。



花いっぱいの診療所

インターネットを見て来院された46歳の男性は、地方から出てきて仕事に就いたものの生活がやっとの事で、糖尿病治療も中断、口渇症状も出て不安になっての来院。収入予定もあり、無料低額診療の対象にはならないが、治療開始、費用は分割払いとなりました。

日々来院される利用者さんの中にはいろいろな「こまりごと」をかかえている人がいます。そのサインを見逃さない職員集団をめざしています。また、地域の医療機関や行政を訪問することで、さいたま市民医療センターや日赤などから患者さんが紹介されるなど広がりが感じられました。

組合員さんと一緒に

診療所や公民館などを会場に「安心ルーム」の活動は「お茶しましょ」「うたごえ」「絵手紙」などが開かれ、「健康体操」「セラバンド」「リズム体操」など「健康ひろば」も各地でとり組まれています。「わいわいランチ」「花の会」など元気な組合員活動が診療所を支えています。

訪問した日はちょうど「わいわいランチの日」、今月はカレーシリーズ第6回、100円玉を握った子どもたちの笑顔と元気な声が、より一層診療所を明るくにぎやかにしてくれます。準備に忙しく走りまわる組合員さんの笑顔も素敵でした。



これからに向かって

患者さんを増やし経営の安定化を図ることはもちろん、職員教育では医療生協さいたまの理念を再確認すること、新しい層の組合員さんも含めてもうひとまわり大きな活動を展開したいとのお話でした。

今回の訪問で、小さな診療所が、法人内外の事業所や医療機関・行政との連携、組合員との協力で、診療所の規模を大きく超えた活動をめざしていることをうれしく思いました。

職員・組合員が一体となった「おおみや診療所チーム」の新しい前進を願いながら帰途につきました。



《終活の参考に》 No.4

次姉の急死 — その後（3）

石丸 乾二

家の片付けは、必要な家電製品はNPO法人に、また新日本婦人の会の班長さんが冷蔵庫を、残りは『家電製品の不要品引き取ります』の業者に、一般的な製品は無料で、特殊な電気製品は5,000円なり3,000円なりを払って引き取ってもらい、最後は『便利屋』に総額220,000円で処理してもらったのです。その間に、仏壇や先祖代々の関係書類を上尾の我が家に運び、骨董品などは目もくれず便利屋に。便利屋曰く「宝石とか貴金属とかへそくりのような現金類は確保しましたか？」悪質な便利屋だと、契約外の金品もちゃっかりモノにするのが狙いだとか、油断もスキもないのです。姉のネックレス類はそれでも金券ショップ・ブランドショップで鑑定してもらったら7万円は超えていました。指輪は残念ながらイミテーションでした。

土地・家屋の売り出しに準備を進めているところで、『3.11』以前から家のリフォームを進めていたようで、南側の屋根にソーラー発電パネルを設置、庭にエコキュート装置を据えつけ、エアコンもナノイー搭載、フィルターお掃除機能付きの最新型に4年前に3台設置してあり、家を丸ごとオール電化とし、ガス装置を撤去という先端的リフォームのメンテナンスをするべきところを『ハウスクリーニング』も含めて手掛けているところです。

不動産の売却前の相続遺産で、『先祖代々の墓』（松戸市八柱に両親がやっとの想いで手に入れたのだが遠くて交通の便などどう見ても不便）を移転（新規に買い八柱霊園のを改葬）で総額300万円弱、求めたのは室内納骨堂の中でのネット比較で、新宿・瑠璃光院白蓮華道というところに、移してみると墓参の機会が増えるが、花はお寺で用意されるので手ぶらで墓参、法事は墓参会と近くのレストランを予約しての食事会で容易になりました。お寺は浄土真宗大谷派ですが、無宗教ということで契約しましたので、よほどのことがない限りお布施は払う必要がないのです。

（続く）



オール埼玉総行動

6月4日



暑い日差しの中 北浦和公園には県内各地から 13,200 人が集結。OB会からも現役の仲間もたくさん参加。「安保法制廃止」「立憲主義を取り戻す」と声高らかに。行進後は渴いた喉を潤おしながら、いつものように楽しい食事会でした。



クロアゲハの蝶々さんヨー
こんなに固まっていると 共謀罪で
捕獲されちゃうぞー 海老塚 利明

私の一枚



安芸の宮島
ライトアップを浴びながら
山本 康男

ホームページ 7月号の表紙の写真
ご覧になりましたか? ビックリですね。

埼玉民医連退職者の会

検索

沖縄の旅から



伊江島：公益質屋跡
米軍の攻撃で村の建物は焼き払われ、
かろうじて原形をとどめていた貧民を
救った施設。海上の戦艦から艦砲射撃を
受けた大きな穴の痕も生々しい。



「平和の礎」
沖縄戦終結 50 周年事業として太田昌秀県政
時代に、国籍、軍人・民間人を問わず、すべ
ての戦没者の氏名を刻んで建設された。
今年新たに 54 名の名前が刻まれ、全体の刻
銘者は 241,468 人となった。



沖縄の自然 金子 仁志

(OB会ホームページ「写真のページ」より)



あとがき

雨の日には雨の日なりの楽しみ方と思い、雫がキラキラ
光る色とりどりの紫陽花を眺めながら・・・

都議選では自民党が歴史的な惨敗、この流れを安倍政権の終わりへと・・・

いろいろな思いを持ちながら、皆様のご協力で今号も 16 ページです。

暑さはこれからが本番、身体を大切に この夏を乗り切りましょう。(け&よ)

埼玉民医連退職者の会 〒333-1111 川口市木曾呂 1347 老健みぬま内